讀賣新聞

2005年(平成17年)2月8日　火曜日

発行所
読売新聞東京本社
第46298号
〒100-8055
東京都千代田区大手町1-7-1
電話　(03)3242-1111(代)
http://www.yomiuri.co.jp/

くらし　家庭

生活塾　マネー　マイブーム　メンテナンス　マナー

スキミング被害急増

ひと手間かけて防御

偽造キャッシュカードを作り、口座から現金を不正に引き出すスキミングが急増しています。スキミングしにくいカードへの切り替えなど銀行も対策に乗り出していますが、利用者個人が気をつけることも大切です。被害に遭う危険を減らすためのポイントを考えてみましょう。

スキミングとは、他人のカードの磁気情報を不正に読み出すこと。それにより偽造カードが作られ、金品をだまし取られます。カードそのものではなく、データだけを盗む巧妙な手口です。中でも、ここ二、三年急増しているのは、銀行のキャッシュカードで現金が引き出される被害です。

銀行のキャッシュカードには、銀行名、支店名、口座番号などが記録されています。これらの磁気情報が瞬時に読み取られ、偽造カードは作られます。

偽造カードで現金を引き出すのにも暗証番号は必要です。偽札鑑別などのセキュリティー機器メーカー、松村テクノロジー(東京)社長の松村喜秀さんは「まず、暗証番号を他人に知られない工夫を」と話します。松村さんによると、カード利用者の70%が生年月日や電話番号などから暗証番号を決めており、5%がカードに暗証番号を自分で書いていると言います。

「何かの記念日や語呂合わせなど、他人に類推されにくい暗証番号を使うことが大切」と話します。暗証番号を頻繁に変えるのも一つの方法と言われますが「覚えきれず、手帳などにメモする人が多いようです。他人に知られやすくなるので私は勧めません」。

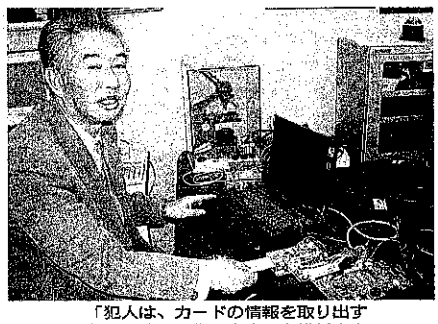
現金自動預け払い機(ATM)で暗証番号を入力する時に他人に見られない工夫も大切です。特定非営利活動法人(NPO法人)、日本情報安全管理協会(東京)業務企画課長の剣木博文さんは「入力している手元を、体や別の手で隠します。携帯電話のカメラをかざしているような不審な人物が周囲にいないかも確認しましょう」とアドバイスします。

カードを持ち歩く時は、できるだけ身につけるようにします。「居酒屋で上着のポケットに入れたまま離れたところにかけておいたり、トイレなどに中座するときにバッグの中に入れたままにしたりしないように」

万一被害にあっても、その額が大きくならないように工夫することも重要です。「頻繁に引き出す生活費の口座だけカードを作り、大口や定期預金の口座はカードを作らないという方法があります」と剣木さん。手間はかかりますが、カードを作った口座へ現金を少しずつ移しながら利用することを勧めています。

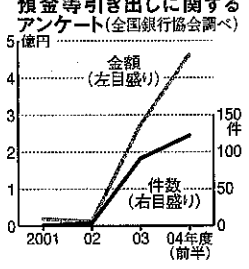
今週の三か条

- 暗証番号は類推されにくいものに
- 外出時、カードはできるだけ手元に
- 大口の口座ではカードを作らない



「犯人は、カードの情報を取り出す装置を簡単に作ります」と松村さん

偽造キャッシュカードによる預金等引き出しに関するアンケート(全国銀行協会調べ)



半年だけで被害4億超

全国銀行協会(東京)が会員百八十行を対象に調査したところ、キャッシュカードによるスキミング被害は、二〇〇一年度は一件、1900万円でしたが、二〇〇三年度には九十一件、2億7200万円、二〇〇四年度は半年だけで百二十二件、4億6100万円になっています。

松村さんは「犯人は、毎日のように銀行口座の残高を確認し、たくさんのお金が口座に入った時点で引き出すようです。偽造カードを作った時と、現金を引き出した時が離れているため、いつ、どこでデータを盗み取られたのか被害者には分かりにくいのが実情です」と話しています。